

グローバルガバナンス論

川崎哲

kawasaki@peaceboat.gr.jp

<http://kawasakiakira.at.webry.info> (ブログ)

ツイッター@kawasaki_akira

授業題目

核兵器のない世界を具体的に構想する

授業概要・目的／到達目標／身に付く力

国際社会の協調のもとで核軍備を縮小し廃絶するための課題を学ぶ。また核兵器と原子力の関係を理解し、その危険を国際的に管理し削減する方法も学ぶ。

核問題は通常、国家の安保・防衛問題としてあるいは国際関係の問題としてとらえられることが多い。この授業では、それぞれの国家政策や国際関係のあり方をとりあげつつも、核問題をさらに広い地球規模（グローバル）の安全保障とガバナンスの問題であるという観点からとらえ、国際協力を通じた問題解決を考える。そして政府だけでなく、非政府主体、市民社会の役割についても注目する。担当教員はこの分野での国際NGO活動に長く関わっており、国際的な活動や交渉の現場の声を紹介しながら授業を進める。

授業の大きな目標は、これらの問題についての現状と概要を理解し、グローバルな平和メカニズムを構想する力を身につけることである。より具体的には、現状の問題点を論理的に指摘するとともに、その克服方法や新しい構想について発表し、異なる意見・立場の相手と議論をたたかわせる力を身につけることをめざす。

核を通じて国際社会のあり方を学ぶことはまた、他の分野の国際関係、地球規模課題の理解を促進するものでもある。各自の関心のある専門領域との比較検討ができるようになればなおよい。

毎回の授業

以下のテキスト2冊を使い、授業の各回に担当者を決め、割り当てた章をあらかじめ読み込んだ上で発表してもらい、ディスカッションする。ただしこのテーマは国際情勢のなかで日々動いている問題であるので、そのときどきの時事問題を織りまぜながらディスカッション主体で進行していく。割り当てた章に関する時事報道の調査・報告を課題とすることもある。

授業開始時までにはテキスト2冊を用意し、概要に目を通し、議論を開始する準備をしておくこと。また、新聞等で国際ニュースには頻繁に目を通し、外交・安保にかかわる諸問題については積極的に情報収集するようにしておくこと。

成績評価方法

討論参加と内容70点。レポート30点。

テキスト

- (1) 吉川元・水本和実『なぜ核はなくならないのかⅡ』法律文化社、2016年
- (2) 川崎哲『核兵器を禁止する』岩波ブックレット、2014年

参考文献

日本軍縮学会編『軍縮辞典』信山社、2015年 ほか適宜、授業中に案内します。